

平成21年11月6日

各位

上場会社名 住友ベークライト株式会社
 代表者 代表取締役社長 小川 富太郎
 (コード番号 4203)
 問合せ先責任者 経理企画本部副本部長 寺島 郁朗
 (TEL 03-5462-3452)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月8日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	185,000	2,500	4,500	1,500	6.22
今回発表予想(B)	170,000	4,600	5,600	800	3.32
増減額(B-A)	△15,000	2,100	1,100	△700	
増減率(%)	△8.1	84.0	24.4	△46.7	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	212,409	△1,639	490	△7,907	△31.78

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	97,000	△1,900	500	300	1.24
今回発表予想(B)	100,000	1,000	3,500	900	3.74
増減額(B-A)	3,000	2,900	3,000	600	
増減率(%)	3.1	—	600.0	200.0	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	104,289	△7,668	1,515	△2,316	△9.31

修正の理由

第2四半期累計期間において昨年度発生した金融危機による需要の大幅な減少と急激な在庫調整の影響が一服し、当社主力の半導体・情報通信関連事業をはじめ全般的に販売が回復基調にあります。

第2四半期累計期間の現状を踏まえ、通期業績予想においては、個別決算の売上高は、前回の予想を上回る見通しとなりました。連結決算の売上高は期前半において主に海外地域の販売の回復が足踏みした影響と需要がまだ本格的な回復には至っていないことから前回の予想を下回る見通しとなりました。

一方、利益面では、コスト削減と前年度から国内外で推し進めてきた事業体質改革の効果がすでに収益に寄与をはじめ、連結決算では営業利益および経常利益が前回予想を上回る見通しです。しかしながら第2四半期累計期間において特別損失に期末株価下落による投資有価証券評価損および前年度に引き続き更なるリストラ推進のための事業再建関連費用を計上したことなどにより、当期純利益は、前回予想を下回る見通しです。個別決算では、上述の要因により営業利益、経常利益および当期純利益は前回予想を上回る見通しです。

※上記予想は作成時点において当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいており、実際の業績は事業環境など様々な要因によりこれらの予想と異なる可能性があります。

以上